

イベント（講演）名	平成 18 年度 第 1 回 環境保全・共生科学技術研究会 「安全で安心な地域づくりと新産業創出」
主 催	(財) 郡山地域テクノポリス推進機構 日本大学工学部工学研究所
開催又は実施年月日	平成 18 年 6 月 16 日（金）
開催又は実施場所	日本大学工学部 50 周年記念館（郡山市）
参加人員	約 62 名

「安全で安心な地域づくりと新産業創出」を統一テーマとし、地域企業共同研究に向けたプレゼンテーションを行いました。

〔コーディネーター〕

日本大学工学部 土木工学科 長林久夫 教授



1 「安全で安心な地域づくりと新産業創出」

日本大学工学部 土木工学科 長林久夫 教授

アイデアを新たな事業に発展させるためには、大学と企業の連携だけでなく、住民と行政の協力による地域への展開が必要となる。皆さんと夢を育てる研究会をつくり、地域から“はっしん”する事業展開をしたいとのことでした。

2 「自然エネルギーを利用した水素製造とマイクログリッド構想について」

日本大学工学部 情報工学科 佐藤晴夫 教授

風力発電・太陽光発電・小水力発電・燃料電池等を利用した水素製造とエネルギーの地産地消を目指した小規模分散型電力系統いわゆるマイクログリッド構想について提案しました。



3 「許認可の複雑な小水力利用の推進と啓蒙」

日本大学工学部 機械工学科 渡部弘一 助教授

他地域の小水力利用事例等を参考に、地域行政や企業等と連携して小水力の利用の推進と実用を目標としているとのことでした。

4 「燃料電池を用いた小規模分散型電源装置の開発」

日本大学工学部 電気電子工学科 上田 剛 助教授

燃料電池は、排電時に排出するのは水と熱のみであり、水素と酸素を利用して発電する非常にクリーンな電源装置である。分散型発電は、太陽光発電、風力発電、マイクロガスタービン、燃料電池等の方式が考えられるが、固体高分子型燃料電池が開発され、にわかには脚光を浴びているとのことでした。

